

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870600301		
法人名	株式会社 稲善		
事業所名	いねの里 やすらぎの家 1丁目		
所在地	茨城県筑西市下中山381-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成22年6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ibaraki-kouhyou.as.wakwak.ne.jp/kouhyou/infomationPublic.do?JCD=0870600301&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成22年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは3階建ての3階に3ユニットあり、1階にはデイサービス、2階にはショートステイがオープンしました。隣接する保育園児がホームを訪問したり、同じ敷地内の野菜畑で、季節の野菜を共同で収穫したりします。
空の市民文化祭には、日頃の力作を出展し、地域の人との交流の場を積極的に設けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームから筑波山が一望でき、またホームの近くには五行川が流れており、四季を身近に感じられる場所に立地している。3階建ての最上階がグループホームになっており、1階にはデイサービス、2階にはショートステイになっている。3ユニットになっており、それぞれが居心地良く生活出来るよう、ソファを置いたりテーブルの配置を考慮したり工夫がされていた。隣接している保育園の子ども達との交流も参加であったり、また地域の行事や文化祭などに参加し地域住民との交流も図っている。誕生会には、地域のボランティアが日本舞踊や三味線の演奏など様々な催しを披露し、利用者の楽しみの1つとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・実施している。 ・月に1回開催されているユニット別の会議で理念の共有を再確認し、具体的な日々の取り組みについて話合っている。	家庭的な雰囲気大切にすることや地域との関わりを大切にすること等を理念に掲げている。理念は、職員の意見を基にして文章にした。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・実施している。 ・保育園児の運動会やイベントでのボランティア、ゲートボール場を解放し、地域との交流の場を設けている	市の文化祭にボランティアとして参加したり、地域の方が参加するゲートボール大会の会場として場所を提供したりしている。市の行事やお祭りに出かけたり、文化祭には作品を出展したりしながら地域との交流を図っている。保育園児との交流も盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・利用者の作品を市の文化祭等に出展し、理解・交流の場としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回実施 ・地域とのつながりや交流、施設の取り組みを目的としている、	2ヶ月に1回実施している。参加者から毎回色々な意見や提案が出されている。会議での意見は職員に報告は行っているが、意見を検討する機会がもたれていない。	運営推進会議で出た意見が、サービス向上に活かせるように、ホーム全体で話し合いの機会をもつ事や、意見を解決するためのシステム作りが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・実施している。 ・利用者の経済的相談、困難事例を相談したりしている	市が主催のグループホーム協議会に入会している。運営推進会議以外に認定調査の時や生活保護関係者の職員との関わりがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・帰宅願望が強く、徘徊のある利用者に対しては、見守りを徹底している。	ユニット会議で話し合いを行ったりする事で、身体拘束をしないケアについて職員全員で意識を統一している。玄関の施錠は行っておらず、徘徊のある利用者に対するケア方法について、話し合いを頻回に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・実施している。 ・利用者の生活歴、性格等を職員全員が共有し、日々利用者の理解に努めていく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・実施している。 ・研修に参加している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・実施している。 ・家族との契約の締結時は納得して頂くまで、十分な時間を取る。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族の面会時、意見・要望を表せる環境作り、運営推進会議の議題としている。	面会時や電話連絡した時には、必ず意見や要望についてホーム側から尋ねるようにし、意見等が言いやすいよう配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・実施している。 ・月1回の全体ミーティングで職員の意見を聞いている。	管理者は、ユニット会議等で、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。職員の意見は代表者に伝えるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・研修や上位資格取得のバックアップがされている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・実施している。 ・法人内外の研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・地域交流会の勉強会等に積極的に参加するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・実施している。 ・信頼関係を築く為、日々少しでも会話をし、思っている事、悩んでいる事を聞きだし、支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・実施している。 ・家族等と情報収集を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・実施している。 ・入所するまでの間、ショートステイの利用を考慮してもらう。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・実施している。 ・利用者は人生の先輩であることを常に管理者から職員へ指導している。全てお世話するのではなく、本人の力を見極め、ケアをして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・毎月いねの里だよりを送り、近況報告をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・面会をはじめ、併設事業所利用者との交流、お誕生会などのイベントが行われている。	馴染みの人や場所の情報収集を行っており、情報シートに記入している。友人が遊びに来てくれたり、馴染みの場所にドライブに出かけたり、家族の協力も得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・実施している。 ・日常生活の中で、洗濯物をたたんだり、共同作業を取り入れる		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・相談や支援が必要な際には応じている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・実施している。 ・生活歴を考慮し、希望する暮らしに近づける	センター方式を用いて、暮らしの情報として各人の生活についての情報が記録されている。本人から昔の話を聞いたり、家族に情報を得ながら、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・実施している。 ・入居時の情報提供、センター方式等でアセスメントをする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・実施している。 ・ケース記録、申し送り等で、情報の共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・実施している。 ・毎月ユニット会議を開催して現状の方向性を検討して、作成している	ユニット会議の中で、カンファレンスを行っている。職員から、情報を得ながら計画作成担当者が現状に合った介護計画の作成を行っている。モニタリングも定期的に行われている。	アセスメントを活かし、本人の意見を聞きながら、暮らしを反映した介護計画の作成について、全職員で検討することが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・実施している。 ・日々のケアの記録、急変時には申し送り事項で、情報を共有しながら、介護計画見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・併設している事業所がある為、個々のニーズに合わせ、様々なサービスが提供できる状況がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・実施している。 ・お店での買い物、通院、散歩をしたり、保育園児と話したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・実施している。 ・月2回の往診とかかりつけの受診を行ったり、必要に応じて通院介助を行っている。	今までのかかりつけ医に受診できるように支援している。また契約時に、ホームの協力病院を紹介したりと、本人や家族が納得を得た病院への受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・実施している。 ・看護職員との情報の共有・提供をし、利用者の体調管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・実施している。 ・医師・看護師が定期的に来所している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・実施している。 ・契約時、看取りの方法や手段を家族と相談している。	契約時に、看取りの方法について家族に確認を行っているが、終末期ケアに関する書類が揃っていない。	終末期ケアを行っていく事であれば、代表者・管理者・職員を含めて、ホーム全体で話し合いを行い、具体的な対応(終末期ケアのマニュアルなど)についての記載が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急マニュアルを掲示してある。 年間を通じ、全職員が訓練できるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	・簡単ではあるが避難訓練を行なっている	独自で、利用者と一緒に避難訓練を行っている。それぞれのユニットで、避難経路がわかりやすいように色別されており掲示してあった。法人の代表者は、地域の協力が得られるよう、消防団長と話し合いをしている。	消防署立会いのもと、夜間想定も含めた避難訓練の実施が望まれる。災害時、ライフライン等がストップした場合を想定し、地域との協働体制などを、法人全体で検討しておく事も必要かと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個人の生立ちや生活状況をユニット会議で情報を共有し、尊厳を損なわない声掛けをしている	個人情報保護について、契約時に同意を得ている。家族との話し合いは、居室や事務所など、他者がいない場所で行っている。言葉かけやケアにおいては、利用者の気持ちを尊重するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・実施している。 ・利用者の希望に応じて、ユニット会議で話し合い計画を立て取り組んでいる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・実施している。 ・利用者のペースを大切に、一人ひとり個別性のある支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・実施している。 ・2ヶ月に1回美容師が来所している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・実施している。 ・利用者と共に食事をしたり、片づけなどをし、食事の大切さ楽しさを支援している	職員と利用者が同じテーブルを囲み、楽しく食事をしていた。ホームの畑で作った季節の野菜を、食材にして提供している。食事の下準備や後片付けを利用者と一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・実施している。 ・トロミ、おかゆ、その人に合った食作り ・本人の好きな飲み物などを考慮し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・実施している。 ・一人で出来る方は声掛けし、出来ない方は職員がケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・実施している。 ・トイレで排泄できるよう、排泄のパターンを見て介助する。	排泄のパターンを活かしたり、しぐさを観察したり、時間でトイレに誘導するようにしている。「便所」と明記することで、自分でトイレに行けるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分の摂取量やバランスの取れた食事に気をつけ、適度な運動をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・実施している。 ・声掛けの工夫や足浴・清拭などで対応している	毎日入浴したい等、本人の希望に合わせて入浴の支援を行っている。季節に合わせて、ゆず湯にしたりと入浴を楽しめる工夫をしている。入浴しない時は、足湯を行いリラックス出来るような支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・実施している。 ・利用者の体調や様子に合わせて、その人に合った言葉掛けをし、安楽な状態で休息して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・実施している。 ・看護師を中心に、申し送りノートを活用して事故のないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・実施している。 ・洗濯物たたみ、掃除等役割ある環境作りをしている。職員は利用者には必ず感謝の言葉を掛け、喜びのある生活が出来るよう、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・実施している。 ・天候、体調に合わせた散歩コースを決め、個別のニーズにも対応できるように努めている。	日常的には散歩に出かけたり、ドライブに出かけたりしている。季節に合わせて、お花見に出かけたり、ユニット毎に小旅行に行ったり、家族の協力の下墓参りに出かけたり、外食に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・実施している。 ・買い物など、職員同行し、好きな物など買えるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・実施している。 ・利用者個々の状況に合わせて対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・実施している。 ・季節の花を飾ったり、行事の写真を貼ったり工夫をしている。	ユニットによって異なるが、ゆっくり過ごせるようソファが置いてあったり、季節の花が飾られていたり居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・実施している。 ・気の合った利用者同士、楽しく食事ができたり、会話が弾むような工夫をしている(テーブルの席順等)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・実施している。 ・窓に鉢植えの花、好みの写真等を飾り、居心地良く過ごせる工夫をした。	家族が来て一緒に食事したり、ゆっくり過ごせるようにテーブルや椅子が置いてあった。それぞれ、ベットやテレビで持ち込んだり、それぞれが思い思いに過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・部屋の入り口に利用者の写真や好みの飾り付けをし、自分の部屋が分かる様にしている		

目標達成計画

作成日: 平成 22年 6月 20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	アセスメントを活かし、本人の意見を聞きながら、暮らしを反映した介護計画の作成について、全職員で検討する。	全職員で、アセスメントを活かした介護計画の作成。	アセスメントを活かし、介護に接する全職員が、本人の意見を聞きながら、暮らしを反映した介護計画作成をする。朝礼、1/月のユニット会議で情報を共有する。	3ヶ月
2	35	消防署立会いのもと、夜間想定も含めた非難訓練の実施。災害時、ライフラインなどがストップした場合を想定し、地域との協力体制などを、法人全体で検討しておく事も必要である。	消防署立会いのもと、夜間想定を含めた非難訓練を実施する。	①消防職員の講話(消火訓練、通報訓練等) ②消防署立会いのもと、夜間想定非難訓練 ③グループホームのみの非難訓練を1/月回行う	3ヶ月
3	4	運営推進会議で出た意見が、サービス向上に活かせるように、ホーム全体で話し合いの機会を持ち、意見を解決するためのシステム作りをする。	運営推進会議での意見が、サービス向上に活かせるようなシステム作りをする。	毎月のお便りに、運営推進会議の意見を載せる。いねの里のイベントには、ご近所の方にも参加して頂き、自治会の行事にも参加できるようにしたい。	6ヶ月
4	33	終末期ケアについて、ホーム全体(代表者、管理者、職員)で話し合いを行い、具体的な対応(終末期ケアのマニュアルなど)についての記載。	終末期ケアについて、ホーム全体で話し合いを行い、マニュアルを作成する。	終末期ケアについて、看護師、ホーム全体で話し合う。本人の意志が確認できる状態時に、主治医、家族の合意のもと職員全員が周知し対応する。	5ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。